

# リスク説明書(LION CFD 個人のお客様用)対比表

2023年11月20日

(青字部分は追加、~~青字~~部分は削除箇所)

現 行	変 更 後
<p>2. レバレッジ効果によるリスク</p> <p>本取引は、レバレッジ(てこの原理)を利用した取引であり、対価で行う取引に必要な資金と比較して、少額の資金での取引が可能のため、少しの原資産の価格の変動であっても、お客様の未決済ポジションの評価損益は大きく変動します。従って、預託された資金の元本割れもしくは元本を上回る損失発生可能性があります。</p> <p>当社では、お客様の便宜のため、「最大レバレッジ」と「実効レバレッジ」とを使い分けております。「最大レバレッジ」とは、必要証拠金に対価で行う取引に必要な資金の何倍の取引となっているかを示すもので、「実効レバレッジ」とは、口座全体のレバレッジのことで、有効証拠金に対価で行う取引に必要な資金の何倍の取引となっているかを示すものです。なお、個人のお客様の「最大レバレッジ」「実効レバレッジ」は、最大で株価指数CFDの場合は10倍、債券CFDの場合は50倍、その他有価証券CFDの場合は5倍となっております。</p>	<p>2. レバレッジ効果によるリスク</p> <p>本取引は、レバレッジ(てこの原理)を利用した取引であり、対価で行う取引に必要な資金と比較して、少額の資金での取引が可能のため、少しの原資産の価格の変動であっても、お客様の未決済ポジションの評価損益は大きく変動します。従って、預託された資金の元本割れもしくは元本を上回る損失発生可能性があります。</p> <p>当社では、お客様の便宜のため、「最大レバレッジ」と「実効レバレッジ」とを使い分けております。「最大レバレッジ」とは、必要証拠金に対価で行う取引に必要な資金の何倍の取引となっているかを示すもので、「実効レバレッジ」とは、口座全体のレバレッジのことで、有効証拠金に対価で行う取引に必要な資金の何倍の取引となっているかを示すものです。なお、個人のお客様の「最大レバレッジ」「実効レバレッジ」は、最大で株価指数<del>関連</del> CFD の場合は 10 倍、<del>債券 CFD の場合は 50 倍、その他有価証券 CFD の場合は 5 倍</del> となっております。</p>
<p>3. 価格調整にかかるリスク</p> <p>商品先物を原資産とするCFD取引は、当社が定める日の未決済ポジションに対して当社が定めた価格調整額が発生します。価格調整額は、原資産となっている先物の限月交代によってCFDの建玉に発生する評価損益を調整するものです。対象原資産市場の最終取引日の前の当社が定める日において、対象原資産の期近銘柄と期先銘柄の価格差を基に算出します。</p>	<p><del>3. 価格調整にかかるリスク</del></p> <p><del>商品先物を原資産とするCFD取引は、当社が定める日の未決済ポジションに対して当社が定めた価格調整額が発生します。価格調整額は、原資産となっている先物の限月交代によってCFDの建玉に発生する評価損益を調整するものです。対象原資産市場の最終取引日の前の当社が定める日において、対象原資産の期近銘柄と期先銘柄の価格差を基に算出します。</del></p>
<p>4. 金利調整にかかるリスク</p> <p>株価指数、ETF(上場投資信託)、ETN(指標連動証券)を原資産とするCFD取引は、当日の取引終了時における未決済ポジションに対して当社がカバー取引を行う際に発生する金利および貸株料として金利調整額(買建玉を保有している場合は支払い、売建玉を保有している場合は受取り)が発生し有効証拠金へ加減算されます。金利調整額は当社が定めた額としますが、金利調整額は、金利水準が各国の経済事情や政治情勢等様々な要因を反映するため変動します。そのため、売建玉を保有している場合でも、マイナス金利となる際は、当社への支払いとなります。金利はリクイディティブロバイダーより提供されるレートを基に当社が決定します。</p>	<p>4.3. 金利調整にかかるリスク</p> <p>株価指数、ETF(上場投資信託)、<del>ETN(指標連動証券)</del>を原資産とするCFD取引は、当日の取引終了時における未決済ポジションに対して当社がカバー取引を行う際に発生する金利および貸株料として金利調整額(買建玉を保有している場合は支払い、売建玉を保有している場合は受取り)が発生し有効証拠金へ加減算されます。金利調整額は当社が定めた額としますが、金利調整額は、金利水準が各国の経済事情や政治情勢等様々な要因を反映するため変動します。そのため、売建玉を保有している場合でも、マイナス金利となる際は、当社への支払いとなります。金利はリクイディティブロバイダーより提供されるレートを基に当社が決定します。<del>また、ETFを原資産とするCFD取引では、金利調整額に借入金利調整額を含みます。借入金利調整額は原資産となるETFの調達に困難な状況で発生することがあり、売建玉を保有している場合に支払いとなりま</del></p>

	<p>す。借入金利調整額は原資産となるETFの貸借需給関係等によって変動し、リクィディティプロバイダーより提供されるレートを基に当社が決定します。</p>
<p>5. 権利調整にかかるリスク</p> <p>株価指数、ETF、ETNを原資産とするCFD取引において、配当金・分配金の各権利確定日の取引終了時点で建玉を保有していた場合、これらの権利調整額が建玉に発生します。一般に買建玉を保有している場合は権利調整額を受け取り、売建玉を保有している場合は権利調整額を支払います。一方、原資産となる株価指数自体が配当金を考慮している指数の場合等は、使用するリクィディティプロバイダーによっては、売建玉を保有している場合に権利調整額を受け取り、買建玉を保有している場合に権利調整額を支払います。権利調整額は当社のリクィディティプロバイダーより提供された配当金・分配金相当額を基に当社が決定します。なお、権利調整額は当社の判断により修正する可能性があります。また、原資産のコーポレートアクションの発生によって権利調整額が発生する場合があります。</p>	<p>54. 権利調整にかかるリスク</p> <p>株価指数、ETF、<del>ETN</del>を原資産とするCFD取引において、<b>原資産となる株価指数の構成銘柄の配当金の権利確定日・原資産となるETFの分配金の各権利確定日の取引終了時点で建玉を保有していた場合、これらの権利調整額が建玉に発生します。一般に建玉の保有数に応じて、買建玉を保有している場合は権利調整額を受け取り、売建玉を保有している場合は権利調整額を支払います。</b><del>＝</del><b>但し、株価指数を原資産とするCFD取引において、原資産となる株価指数自体が配当金を考慮している指数の場合等は、使用するリクィディティプロバイダーによっては、売建玉を保有している場合に権利調整額を</b><del>の</del><b>の受取り、買建玉を保有している場合に権利調整額を</b><del>の</del><b>の支払いとなる場合があります。権利調整額は各国の所得税等を考慮して決定するため、発行会社等が発表している数値と異なる場合があります。</b>権利調整額は当社のリクィディティプロバイダーより提供された配当金・分配金相当額を基に当社が決定します。なお、権利調整額は当社の判断により修正する可能性があります。また、原資産のコーポレートアクションの発生によって権利調整額が発生する場合があります。</p>
<p>6. コーポレートアクションのリスク</p> <p>株式、ETF、ETNを原資産とするCFD取引において、原資産にコーポレートアクションが発生した場合は、当社は決済期日を定めた上で新規取引を停止する場合があります。建玉を決済期日までに決済されなかったときには、当該建玉は当社の任意で反対売買により決済されます。</p>	<p>65. コーポレートアクション等のリスク</p> <p><del>株式、ETF、ETNを原資産とするCFD取引において、</del>原資産にコーポレートアクション<b>(現金配当など経済的権利に実質的な影響が及ばないものを除きます)、上場廃止等が発生した場合は、当社は、原則、決済期日を定めた上で、新規建て注文を停止します。新規取引を停止する場合があります。</b><del>その場合、当該銘柄の発注済みの注文は原則、全て取り消しいたします。</del>なお、建玉を決済期日までに決済されなかったときには、当該建玉は<b>決済期の終了以降に未約定の決済注文を取り消した上で、当社の任意の価格及び日時でお客様の計算において反対売買により強制決済されます。また、</b>海外市場に上場する有価証券においては、コーポレートアクション等に関する情報を適宜入手することができず、決済期日までの期間が短期間である場合や急遽、強制決済に至る場合があります。</p>
<p>7. 提示レートに関するリスク</p> <p>提示レートとは、取引画面上に表示されているASKレートとBIDレートのことをいい、お客様はASKレートで買い付け、BIDレートで売り付けることができます(このような買い付け価格と売り付け価格の差のことを「スプレッド」といいます。)。当社の提示レートは、カバー先からの配信レートに基づき、当社の表示する銘柄毎のスプレッドや流動性等を考慮して生成したものとなります。</p>	<p>76. 提示レートに関するリスク</p> <p>提示レートとは、取引画面上に表示されているASKレートとBIDレートのことをいい、お客様はASKレートで買い付け、BIDレートで売り付けることができます(このような買い付け価格と売り付け価格の差のことを「スプレッド」といいます。)。当社の提示レートは、カバー先からの配信レートに基づき、当社の表示する銘柄毎のスプレッドや流動性等を考慮して生成したものとなります。</p>

<p>ただし、すべてのカバー先からの配信レートは膨大な個数となるため、すべての配信レートに対して提示レートを生成することは困難であることから、当社では、銘柄毎に異なる一定間隔でカバー先からの配信レートを用い、提示レートを生成しております。また、お客様の取引画面上に表示されるレートは、銘柄等によって、更新間隔が異なり、さらに取引ツールによって、提示レートが自動更新ではないもの、更新間隔を選択できるもの等がありますので、当社で生成したすべての提示レートではありません。また、通常時において自動更新であったものが通信状況等の理由によっては、更新されない場合もあり、お客様の取引画面上に表示されている提示レートが、当社サーバにおける最新レートとは異なる場合があります。そのため、お客様の画面への提示レートと約定レートに差が発生することがあります(このように提示価格と約定価格に差が発生することを「スリッページ」といいます。)なお、LION CFDのシステム上の呼び値の単位は、ホームページに掲載の必要証拠金一覧表の呼び値の最小変動単位を1pipとして表示しております。</p> <p>以下、省略</p>	<p>ただし、すべてのカバー先からの配信レートは膨大な個数となるため、すべての配信レートに対して提示レートを生成することは困難であることから、当社では、銘柄毎に異なる一定間隔でカバー先からの配信レートを用い、提示レートを生成しております。また、お客様の取引画面上に表示されるレートは、銘柄等によって、更新間隔が異なり、さらに取引ツールによって、提示レートが自動更新ではないもの、更新間隔を選択できるもの等がありますので、当社で生成したすべての提示レートではありません。また、通常時において自動更新であったものが通信状況等の理由によっては、更新されない場合もあり、お客様の取引画面上に表示されている提示レートが、当社サーバにおける最新レートとは異なる場合があります。そのため、お客様の画面への提示レートと約定レートに差が発生することがあります(このように提示価格と約定価格に差が発生することを「スリッページ」といいます<sup>⇒</sup>)。なお、LION CFDのシステム上の呼び値の単位は、ホームページに掲載の必要証拠金一覧表の呼び値の最小変動単位を1pipとして表示しております。</p> <p>以下、省略</p>
<p>8. ロスカットのリスク</p> <p>本取引では、預託された資金の元本を上回る損失発生を防ぐため、当社の定める一定時間または当社の定める時点において、CFD価格に基づきお客様の未決済ポジションを時価評価します。時価評価を行った時点で有効証拠金が必要証拠金を下回った場合、当社は、お客様の全ての未決済ポジションを成行注文で反対売買することができますが、その際、市場環境の急激な変動等により、預託された資金の元本を上回る損失発生の可能性があります。</p> <p>また、ロスカット時に決済されるべき銘柄が取引時間外等により取引できない場合、原則、取引開始後に決済されます。その間に、相場変動によって損失が拡大するリスクがあります。</p> <p>なお、有効証拠金の全額を必要証拠金として使われた場合、注文が約定した時点で、スプレッド(売レートと買レートの差)により有効証拠金が必要証拠金を下回り、直後にロスカットとなります。</p>	<p>87. ロスカットのリスク</p> <p>本取引では、預託された資金の元本を上回る損失発生を防ぐため、当社の定める一定時間または当社の定める時点において、CFD価格に基づきお客様の未決済ポジションを時価評価します。時価評価を行った時点で有効証拠金が必要証拠金を下回った場合、当社は、お客様の全ての未決済ポジションを成行注文で反対売買することができますが、その際、市場環境の急激な変動等により、預託された資金の元本を上回る損失発生の可能性があります。</p> <p>また、ロスカット時に決済されるべき銘柄が取引時間外等により取引できない場合、原則、取引開始後に決済されます。その間に、相場変動によって損失が拡大するリスクがあります。</p> <p>なお、有効証拠金の全額を必要証拠金として使われた場合、注文が約定した時点で、スプレッド(売りレートと買いレートの差)により有効証拠金が必要証拠金を下回り、直後にロスカットとなります。</p>
<p>9. 流動性リスク</p> <p>取引対象となる原資産の市場は、各国の祝祭日、戦争・動乱や天災地変、経済動向を大きく左右する事態、また、各国の規制や処置等による取引の制限、取引の停止、取引時間、さらに、金融機関の破綻等によって、流動性の低下または流動性が損なわれる場合があります。このような流動性の低下等の理由により、証拠金取引においては、スプレッド(売りレートと買いレートの差)が拡大したり、注文が約定しない等、ロスカットを含む意図した取引ができない可能性があります。また、約定した場合であっても、原資産の価格の変動や為替レートの急激な変動によっては預託された資金の元本を上回る損</p>	<p>98. 流動性リスク</p> <p>取引対象となる原資産の市場は、各国の祝祭日、戦争・動乱や天災地変、経済動向を大きく左右する事態、また、各国の規制や処置、<b>金融商品取引所の規制</b>等による取引の制限、取引の停止、取引時間の<b>制限</b>、さらに、金融機関の破綻等によって、流動性の低下または流動性が損なわれる場合があります。このような流動性の低下等の理由により、証拠金取引においては、スプレッド(売りレートと買いレートの差)が拡大したり、注文が約定しない等、ロスカットを含む意図した取引ができない可能性があります。また、約定した場合であっても、原資産の価格の変動や為替レートの急激な変動によって</p>

<p>失発生可能性があります。</p>	<p>は預託された資金の元本を上回る損失発生可能性があります。その他、ETFを原資産とするCFD取引では、原資産市場の需給関係等によって品薄になるなど、カバー先が当該銘柄を調達できない場合、新規建て注文、決済注文に関わらず、売り注文が困難となる可能性や約定しない可能性があります。</p>										
<p>以下、項番繰り上げ 10. 損失を限定させるための注文のリスク～14. 両建のリスク</p>	<p>以下、項番繰り上げ 9. 損失を限定させるための注文のリスク～13. 両建のリスク</p>										
<p>15. 取引時間外のリスク → 14. 取引時間外のリスク 以下、新設 ＜株価指数を原資産とするCFDにおいて以下の時間帯の前後・時間帯以外で流動性が乏しくなる可能性があります＞</p>											
<table border="1"> <tr><td>ユーロE50</td></tr> <tr><td>ドイツD30</td></tr> <tr><td>英国F100</td></tr> <tr><td>フランスC40</td></tr> <tr><td>香港HS</td></tr> </table>	ユーロE50	ドイツD30	英国F100	フランスC40	香港HS	<table border="1"> <tr><td>【米国東部標準時間適用時】09:15～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】09:15～翌05:00</td></tr> <tr><td>【米国東部標準時間適用時】09:15～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】09:15～翌05:00</td></tr> <tr><td>【米国東部標準時間適用時】10:00～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】09:00～翌05:00</td></tr> <tr><td>【米国東部標準時間適用時】16:00～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】15:00～翌05:00</td></tr> <tr><td>10:15～13:00、14:00～17:30、18:15～翌04:00</td></tr> </table>	【米国東部標準時間適用時】09:15～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】09:15～翌05:00	【米国東部標準時間適用時】09:15～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】09:15～翌05:00	【米国東部標準時間適用時】10:00～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】09:00～翌05:00	【米国東部標準時間適用時】16:00～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】15:00～翌05:00	10:15～13:00、14:00～17:30、18:15～翌04:00
ユーロE50											
ドイツD30											
英国F100											
フランスC40											
香港HS											
【米国東部標準時間適用時】09:15～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】09:15～翌05:00											
【米国東部標準時間適用時】09:15～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】09:15～翌05:00											
【米国東部標準時間適用時】10:00～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】09:00～翌05:00											
【米国東部標準時間適用時】16:00～翌06:00、【米国東部夏時間適用時】15:00～翌05:00											
10:15～13:00、14:00～17:30、18:15～翌04:00											
<p>16. 営業時間外の取引リスク</p>	<p>15. 営業時間外の取引リスク</p>										
<p>「レバレッジ」と「スプレッドによるロスカット」 (1)「レバレッジ」 ①最大レバレッジとは、想定元本から比較して、本取引を行うために最低限必要である必要証拠金で算出した最大の倍率をいいます。 なお、最大レバレッジの上限は、株価指数CFDの場合は10倍、債券CFDの場合は50倍、その他有価証券CFDの場合は5倍となっております。 ＜最大レバレッジの算出方法＞ 「最大レバレッジ」= 想定元本 (CFDレート×1.1×為替レート×取引数量)÷必要証拠金  例) 米国D30の前日ニューヨーク時間17時のレートを参考にした基準値が31,000ドル、現在のレート31,000ドル、為替レート1ドル＝105円 のとき、1Lot (0.01倍) 買う場合 「想定元本」= 35,805円 想定元本 = CFDレート(31,000ドル)×1.1×為替レート(105円)× 取引数量(0.01倍) = 35,805円 「必要証拠金」= 3,600円 想定元本に10%を乗じた金額(100円未満切り上げ) 35,805円×10% = 3,580.5円 100円未満を切り上げて、3,600円 「最大レバレッジ」= 9.86倍 最大レバレッジ = 想定元本(35,805円)÷ 必要証拠金(3,600円) = 9.95倍</p>	<p>「レバレッジ」と「スプレッドによるロスカット」 (1)「レバレッジ」 ①最大レバレッジとは、想定元本から比較して、本取引を行うために最低限必要である必要証拠金で算出した最大の倍率をいいます。 なお、最大レバレッジの上限は、株価指数関連CFDの場合は10倍、<del>債券CFDの場合は50倍、その他有価証券CFDの場合は5倍</del>とな っております。 ＜最大レバレッジの算出方法＞ 「最大レバレッジ」= 想定元本 (CFDレート×1.1×為替レート×取引 数量)÷必要証拠金 *「1.1」は必要証拠金を算出するにあたり、当社の株価指数関連 CFDの想定元本を計算するための固定のファクターです。  例) 米国D30の<del>前日</del>ニューヨーク時間17時前々営業日の取引終了時 のレートを参考にした基準値が31,000ドル、現在のレート31,000ド ル、為替レート1ドル＝105円 のとき、1Lot (0.01倍) 買う場合 「想定元本」= 35,805円 想定元本 = CFDレート(31,000ドル)×1.1×為替レート(105円)× 取引数量(0.01倍) = 35,805円 「必要証拠金」= 3,600円 想定元本に10%を乗じた金額(100円未満切り上げ) 35,805円×10% = 3,580.5円 100円未満を切り上げて、3,600円 「最大レバレッジ」= 9.86倍 最大レバレッジ = 想定元本(35,805円)÷ 必要証拠金(3,600円) = 9.95倍</p>										

<p>②実効レバレッジとは、お客様の口座の有効証拠金からみて、全ての未決済ポジションに対してかかる口座の実効の倍率をいいます。実効レバレッジは、最大、株価指数CFDの場合は10倍、債券CFDの場合は50倍、その他有価証券CFDの場合は5倍となっておりますが、取引数量、預託金等により、お客様ご自身で実効レバレッジを調節することができます。</p> <p>&lt;実効レバレッジの算出方法&gt;</p> <p>以下、省略</p>	<p>②実効レバレッジとは、お客様の口座の有効証拠金からみて、全ての未決済ポジションに対してかかる口座の実効の倍率をいいます。実効レバレッジは、最大、株価指数関連CFDの場合は10倍、<del>債券CFDの場合は50倍、その他有価証券CFDの場合は5倍</del>となっておりますが、取引数量、預託金等により、お客様ご自身で実効レバレッジを調節することができます。</p> <p>&lt;実効レバレッジの算出方法&gt;</p> <p>以下、省略</p>
<p>2022年12月19日現在</p>	<p>2023年11月20日現在</p>